

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 一般社団法人ブリッジハートセンター東海

1. 事業名称

多文化共生における外国人市民の治療に関わる医療及び福祉支援制度の日本語教育事業

2. 事業の目的

静岡県西部地域に在住する外国人市民に、生活していく中で欠かすことができない医療言語や社会福祉支援制度、また自身や家族・子どもに障害があった時の治療において、どのような日本語が使われるのかを勉強し、外国人市民自らが支援制度などの情報を取得、申請、利用できることや医療において正しい情報を取得して、治療方法の選択ができることを目的とする。

3. 事業内容の概要

講師には看護師、医師、ソーシャルワーカー、自立支援指導員などの医療や福祉支援の専門家がおり、日本語指導員と連携をとって専門用語をそのまま覚えるのではなく、第三者にわかりやすく伝える方法を覚えるのと同時にワークショップで実際の診察や支援制度の申請時のロールプレイングを行ったり、障害福祉支援施設を見学をして実際の支援の現場を見ることで福祉支援制度の理解を深める。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年8月21日(木) 10:00～12:00	2時間	BHCTokai会議室	石塚良明、久保田君枝、堀永乃、山城ロベルト、野口功	事業の内容と進め方について	委員の自己紹介 事業内容について 実施内容について 改善内容について
2	平成27年2月3日(火) 10:00～12:01	2時間	BHCTokai会議室	石塚良明、久保田君枝、鈴木恵子、山城ロベルト、野口功	事業の内容とシンポジウム(勉強会)の開催について	実施内容について 参加者の声(アンケート結果) シンポジウム(勉強会)の開催 来年度の展開について

5. 取組についての報告

○取組1:日常生活における医療福祉日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

医療や福祉において、外国人市民が自ら情報を取得し、自ら考え選択し動くことができるような知識を取得する。

外国人市民が自発的に地域の輪に入って活動できるように医療、福祉の知識を取得する。

外国人市民が地域社会とのつながり、つなげていく事の大切さを学ぶ拠点となる。

国籍問わずだれでも参加可能にし、地域住民にも参加しやすい環境を作ることで外国人市民と同じ地域に住む日本人に対する意識啓発を行う。

(2) 取組内容

外国人市民が病院にかかると医療通訳がないことで手続きや治療でわかりにくい日本語を中心に行う。また救急車などは「有料」と勘違いし重篤であるにも関わらず、救急車を呼ばずに自分で行く事で治療が後回しになってしまい、手遅れになることもある事からそのような誤解をなくす事も目的とする。

(3) 対象者

開催地区周辺の住民が対象。職業、国籍や年齢は問わない。

(4) 参加者の総数 49人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	13人	ペルー	24人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	12人	

(5) 開催時間数(回数) 52 時間 (全26回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 6月7日 10:00~ 12:00	2時間	浜松市市民協 働センター	14人	ペルー (6人)、 ブラジル (3人)、 日本(5 人)	大人の病 気 やケガな どの 緊急時 の対 応方 法の 講 習Ⅰ	・手当を行うときの患者の症状による対応の方法やケアのサイクルについて、AEDの重要性を解説し、この中でよく使われる専門用語の解説	栢原信二郎	山城カルメン
2	平成26年 6月7日 13:00~ 15:00	2時間	浜松市市民協 働センター	17人	ペルー (7人)、 ブラジル (3人)、 日本(7 人)	大人の病 気 やケガな どの 緊急時 の対 応方 法の 講 習Ⅱ	・応急処置を行うときの一連の流れ ・現場の評価の大切さ ・行動時に安全が最優先であり、危険である場合はどのように行動すべきか この行動の中でよく使われる専門用語の解説	栢原信二郎	山城カルメン
3	平成26年 6月7日 15:00~ 17:00	2時間	浜松市市民協 働センター	15人	ペルー (7人)、 ブラジル (2人)、 日本(6 人)	大人の病 気 やケガな どの 緊急時 の対 応方 法の フ ー ク シ ョ ッ プ	①現場の評価 ②ケアのサイクルに基づいた行動 1連の流れで気になった日本語の復習	山城ロベルト	山城カルメン
4	平成26年 6月14日 10:00~ 12:00	2時間	浜松市市民協 働センター	15人	ペルー (6人)、 ブラジル (4人)、 日本(5 人)	小児の病 気 やケガな どの 緊急時 の対 応方 法の 講 習Ⅰ	・成人と小児で違ってくこと ・心臓マッサージの仕方の違い ・AEDの使い方の違い この中でよく使われる専門用語の解説	栢原信二郎	山城カルメン
5	平成26年 6月14日 13:00~ 15:00	2時間	浜松市市民協 働センター	16人	ペルー (6人)、 ブラジル (4人)、 日本(6 人)	小児の病 気 やケガな どの 緊急時 の対 応方 法の 講 習Ⅱ	・応急処置を行うときの一連の流れ ・現場の評価時の注意点 ・小児や乳児に多い事故や怪我 この行動の中でよく使われる専門用語の解説	栢原信二郎	山城カルメン
6	平成26年 6月14日 15:00~ 17:00	2時間	浜松市市民協 働センター	15人	ペルー (7人)、 ブラジル (3人)、 日本(5 人)	小児の病 気 やケガな どの 緊急時 の対 応方 法の フ ー ク シ ョ ッ プ	①現場の評価 ②ケアのサイクルに基づいた行動 1連の流れで気になった日本語の復習	山城ロベルト	山城カルメン
7	平成26年 6月21日 10:00~ 12:00	2時間	BHCTokai会議 室	12人	ペルー (6人)、 ブラジル (3人)、 日本(3 人)	精 神 面 で の 対 処 法 に つ い て の 講 習	・伝えることの大切さ ・緊急時にパニックになると言葉が出にくくなるがそんな時に片言の日本語でもいいので内容を伝えられるようになるという	野口功	山城カルメン

8	平成26年 6月21日 13:00～ 15:00	2時間	BHCTokai会議 室	15人	ペルー (7人)、 ブラジル (3人)、 日本(5 人)	救急車を呼 ぶときの注意 事項	・救急車を呼んだ時にどんな日本語 が使われるのか ・どのような内容や書類が必要で、 なぜそれを求めるのか	栃原信二郎	山城カルメン
9	平成26年 6月21日 15:00～ 17:00	2時間	BHCTokai会議 室	15人	ペルー (6人)、 ブラジル (4人)、 日本(5 人)	救急車を呼 ぶワーク ショップ	・実際に救急車を呼ぶ一連の流れを 体験 ・体験後に言いにくかった、わからな かった日本語を復習	栃原信二郎	山城カルメン
10	平成26年 7月5日 19:00～ 21:00	2時間	浜松市入野協 働センター	20人	ペルー (12人)、 ブラジル (3人)、 日本(5 人)	入院における 支援制度に ついて	・入院時にどのような支援がありど のよう福祉があるのか、またその中 でどんな日本語が使われるのかを 解説	野口功	山城カルメン
11	平成26年 7月12日 13:00～ 15:00、 19:00～ 21:00	各2 時間	BHCTokai会議 室	16人	ペルー (8人)、 ブラジル (4人)、 日本(4 人)	入院における 支援制度申 請方法のワ ークショッ プ	・実際に入院するときの手続きの体 験 ・体験後に言いにくかった、わからな かった日本語の復習	野口功	山城カルメン
12	平成26年 7月19日 13:00～ 15:00、 19:00～ 21:00	各2 時間	BHCTokai会議 室	午後10 人、夜 間4人	ペルー (7人)、 ブラジル (4人)、 日本(3 人)	一般生活に おける医療支 援制度につい て	・治療時にどのような支援がありど のよう福祉があるのか、またその中 でどんな日本語が使われるのかを 解説	野口功	山城カルメン
13	平成26年 7月29日 13:00～ 15:00、 19:00～ 21:00	各2 時間	BHCTokai会議 室	午後9 人、夜 間3人	ペルー (6人)、 ブラジル (3人)、 日本(3 人)	一般生活に おける医療支 援制度申 請方法のワ ークショッ プ	・実際に治療中・治療後の福祉支援 制度の手続きの体験 ・体験後に言いにくかった、わからな かった日本語の復習	野口功	山城カルメン
14	平成26年 8月2日 13:00～ 15:00、 19:00～ 21:00	各2 時間	BHCTokai会議 室	午後11 人、夜 間7人	ペルー (8人)、 ブラジル (4人)、 日本(6 人)	治療時に言 葉を間違え ることによる危 険についてI	・治療中に間違えた言葉で伝えるこ とでどのようなことが起こるのかを解 説	山城ロベルト	山城カルメン
15	平成26年 8月9日 13:00～ 15:00、 19:00～ 21:00	各2 時間	BHCTokai会議 室	午後12 人、夜 間6人	ペルー (8人)、 ブラジル (5人)、 日本(5 人)	治療時に言 葉を間違え ることによる危 険についてII	・実際に起こったことも交えてその危 険性を説明	山城ロベルト	山城カルメン
16	平成26年 9月5日 13:00～ 15:00、 19:00～ 21:00	各2 時間	BHCTokai会議 室	午後8 人、夜 間5人	ペルー (6人)、 ブラジル (4人)、 日本(3 人)	学んだ内容 のロールプレ イ	・今まで学んだことをもう一度復習 ・その中で理解しきれなかった日本 語をもう一度復習	山城ロベルト	山城カルメン
17	平成26年 9月12日 13:00～ 15:00、 19:00～ 21:00	各2 時間	BHCTokai会議 室	午後7 人、夜 間7人	ペルー (7人)、 ブラジル (4人)、 日本(3 人)	ケース毎の ロールプレ イ	・日本語で怪我や病気などのケース を指定。それを日本語で応急処置や 救急車を呼ぶ ・ケースを指定し、入院や治療の福 祉支援の申請を日本語で行う 上記2点のロールプレイを実施	山城ロベルト	山城カルメン
18	平成26年 9月19日 13:00～ 15:00、 19:00～ 21:00	各2 時間	BHCTokai会議 室	午後9 人、夜 間6人	ペルー (7人)、 ブラジル (4人)、 日本(5 人)	グループディ スカッション	グループ分けをして、今まで学んだ ことをお互いに話し合い、日本語で 発表する	山城ロベルト	山城カルメン

(7) 参加者の募集方法

チラシ配布、メーリングリスト及びソーシャルメディア(ツイッター、フェイスブック等)による広報を行った。



(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

第1回 大人の病気やケガなどの緊急時の対応方法の講習 I

- ・手当を行うときの患者の症状による対応の方法:対象者が吐血をしている、骨折をしている、呼吸をしていない等、その時々で症状は違うからこそその時に何が必要なのか、周りにどのように伝えればいいのかを解説した。
- ・ケアのサイクルについて:気道確保や心臓マッサージなどケアのサイクルについての説明と、周りに助けを求めるときにどのような日本語を使うのかを解説した。
- ・AEDの重要性:AEDを使うときに周りにどのようにお願いをすればいいのか、使用中に使う言葉は何かを解説した。



第6回 小児の病気やケガなどの緊急時の対応方法のワークショップ

- ・現場の評価:この時にどのような言葉が使われるのかを解説した。
- ・ケアのサイクルに基づいた行動:気道確保・呼吸確認・胸部圧迫・人工呼吸・激しい出血の有無・ショック症状・脊髄損傷といったような応急処置に関わる日本語を実際の動きの中で体験をしながら、解説を行った。その後一連の流れで気になった日本語の復習。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

講座終了後アンケートに協力を頂いたところ、救急車がなんであんなに細かく聞いてくるのかやそもそも無料だと知らない外国人市民が多く、救急車を呼んだ時にどのように話したらよいかわかったという意見が何件もあった。また日本人側からも外国人市民がどのような言葉を使うとわかりにくく、何に困っているのかをこの講座を受けたことで理解できたという意見があった。上記の事より外国人市民については、自分の事や今の状況をどのように伝えるのかを知るきっかけを提供できたと考える。また日本人に対しては外国人市民に対し、遠巻きに見ているだけでなく積極的に声掛けをすることの必要性を知るきっかけを提供できたと考える。

(10) 改善点について

講師と打合せ時にはかなり噛み砕いた内容にしたつもりだったが、それでもまだ専門用語が多かったらしくわかりにくいという意見があった。今回は日本語をメインで行ったが専門用語や難しい言葉が多かったので通訳を入れてほしいという言葉も多かったそのあたりをどのようにしていくのかをもう少し検討していく必要がある。

○取組2:障害者・児における医療福祉日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

医療や福祉において外国人市民が自ら情報を取得し、自ら考え選択し動くことができるような知識を取得する。また福祉施設の重要性を理解することで自身が必要な時に必要な場所を選択することが可能になる。外国人市民が自発的に地域の輪に入って活動できるように医療、福祉の知識を取得する。

外国人市民が地域社会とのつながり・つなげていく事の大切さを学ぶ拠点となる。障害を持つ外国人市民は多くいるが情報が届かず支援を受けられていないことが多い。本当に必要な外国人市民に必要な情報を届けることを目標とする。

(2) 取組内容

障害者・児における医療福祉支援制度についてわかりやすく講座を行う。
障害はいきなりなるという事も理解してもらう。

(3) 対象者

開催地区周辺の住民が対象。職業、国籍や年齢は問わない。

(4) 参加者の総数 24 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	7人	ペルー	8人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	9人	

(5) 開催時間数(回数) 24 時間 (全12回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 10月11日 13:00~ 15:00	2時間	浜松市勤労会館	10人	ペルー (3人)、 ブラジル (2人)、 日本(5 人)	日本の福祉 について	日本の福祉制度の内容をわかりやすく解説した。	坂鏡子	山城ロベルト
2	平成26年 10月11日 15:00~ 17:00	2時間	浜松市勤労会館	10人	ペルー (3人)、 ブラジル (2人)、 日本(5 人)	日本の社会 福祉で使わ れる言葉	社会福祉制度と利用方法についてその時に使われる専門用語をわかりやすく解説した。	坂鏡子	山城ロベルト
3	平成26年 10月24日 19:00~ 21:00	2時間	浜松市勤労会館	11人	ペルー (2人)、 ブラジル (3人)、 日本(5 人)	学んだ内容 のワーク ショップ	1と2の講座の内容をワークショップで体験しながら復習をした。	坂鏡子	山城ロベルト
4	平成26年 10月31日 19:00~ 21:00	2時間	浜松市勤労会館	11人	ペルー (5人)、 ブラジル (2人)、 日本(4 人)	地域の福祉 資源について	参加者自身に地域にある資源が何かを考えてもらった。	山名れい子	山城ロベルト

5	平成26年 11月8日 13:00～ 15:00	2時間	浜松市勤労会 館	13人	ペルー (4人)、 ブラジル (3人)、 日本(6 人)	医療における 福 祉 資 源 について	医療を受ける時の福祉資源はどうい うものがあるのか、参加者自身に考 えてもらった	行田智子	山城ロベルト
6	平成26年 11月8日 15:00～ 17:00	2時間	浜松市勤労会 館	13人	ペルー (5人)、 ブラジル (3人)、 日本(5 人)	学んだ内容 の ワ ー ク ショップ・ロー ルプレイ	4と5で考えたことを基にワークで体 験しながら復習をした。	行田智子	山城ロベルト
7	平成26年 11月17日 13:00～ 15:00	2時間	BHCTokai会議 室	11人	ペルー (5人)、 ブラジル (3人)、 日本(3 人)	日本と海外の 福祉の状況	日本の福祉と海外の福祉は何が違 うのかを海外の講師を招き話して もらった。	ヘネシー澄 子	山城ロベルト
8	平成26年 11月18日 13:00～ 15:00	2時間	BHCTokai会議 室	11人	ペルー (4人)、 ブラジル (3人)、 日本(4 人)	グループディ スカッション	外国と日本の福祉制度について講 師を交え対談形式で情報共有を 図った。	ヘネシー澄 子	山城ロベルト
9	平成26年 11月22日 15:00～ 17:00	2時間	浜松市勤労会 館	13人	ペルー (5人)、 ブラジル (4人)、 日本(3 人)	医療用語が 解らない時に どうするべき か	医療用語の意味が分からない時や 言いたいことが言えない時にどの ようにすれば良いのかを覚えてもら った	久保田君枝	山城ロベルト
10	平成26年 11月28日 19:00～ 21:00	2時間	浜松市勤労会 館	10人	ペルー (4人)、 ブラジル (2人)、 日本(4 人)	医療用語に ついてのワー クショップ	9で覚えたことを実際のワークで体 験しながら習得した。	高橋由美子	山城ロベルト
11	平成26年 12月6日 13:00～ 15:00	2時間	浜松市勤労会 館	13人	ペルー (5人)、 ブラジル (3人)、 日本(3 人)	今まで学んだ 内容のロール プレイ	1から10までの内容を色々なケース を作りロールプレイで体験し、わか らない言葉の復習を行った。	平木香織	山城ロベルト
12	平成26年 12月6日 15:00～ 17:00	2時間	浜松市勤労会 館	11人	ペルー (4人)、 ブラジル (3人)、 日本(4 人)	グループディ スカッション	グループ分けをして、今まで学んだ ことをお互いに話し合い、日本語で 発表する	坂鏡子	山城ロベルト

(7) 参加者の募集方法

チラシ配布、メーリングリスト及びソーシャルメディア(ツイッター、フェイスブック等)による広報を行った。

医療・福祉についての日本講座

1 日本の福祉
について
10月11日(土) 13:00-15:00

2 日本の社会福祉
で学ばれる医療
10月11日(土) 15:00-17:00

3 学んだ内容の
7分割
10月11日(土) 18:00-21:00

4 地域の福祉資源
を学ぶ
10月11日(土) 19:00-21:00

5 医療における
福祉資源について
11月8日(土) 13:00-15:00

6 学んだ内容の
7分割・ロール
プレイ
11月8日(土) 15:00-17:00

7 日本と海外の
福祉の状況
11月17日(金) 13:00-15:00

8 グループ
ディスカッション
11月18日(土) 13:00-15:00

9 医療用語が解ら
ない時にどうす
るべきか
11月22日(火) 15:00-17:00

10 医療用語につ
いてのワーク
ショップ
11月28日(月) 19:00-21:00

11 今まで学んだ
内容のロール
プレイ
12月6日(土) 13:00-15:00

12 グループ
ディスカッション
12月6日(土) 15:00-17:00

会 場：浜松市勤労会館13ホール (浜松市中央区1丁目8番1号)
対象者：外国人市民、受講者
問合せ：一般社団法人アジャストセンター事務局
E-mail: info@ajast.jp
Tel: 053-488-4973 Fax: 053-488-4974

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

第2回 日本の社会福祉で使われる言葉
福祉用語は色んな言葉があり、言葉だけでは何のことを言っているのかを理解できないものが多い。その中で、言葉の意味を理解し、この福祉用語が何を指しているのかを知ることで、自分や家族、友人に福祉が必要になった時にどのように利用すればいいのかを知ってもらった。

内容は福祉とは何か?、障害とは何か?や、最低限覚えておいたほうが良い日本語について等。



第12回 今まで学んだ内容のロールプレイ
支援者と利用者という立場を指定し、色々なケースを想定してこの時にはどのような言葉が出てくるのか?、またどのように返事をすればよいのかを今まで学んだ内容から、日本語でのワークを行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

取組Ⅱではより実践的な内容をケースとして出し、実施を行った。この中で外国人市民からは逆に事例毎によって使われる日本語が違い、ただ言葉を覚えればよいわけではない事がわかったという意見が多く聞かれた。また福祉支援制度の言葉を理解することで本当に必要としたときにどのように行動すればよいのかを知ることができたという意見が多かったので、「自発的に情報を収集し、自分で考え必要な支援を受ける」ために必要な知識を外国人市民にも広める事ができた。

(10) 改善点について

こちらの内容でもやはり専門用語が多いという意見があった。前回の事も踏まえ、通訳も入れていたが、通訳側もどのように通訳をすればよいのかを迷った場面も見られたため、今後の活動においては通訳が入る場合は事前に通訳員にも内容の説明や事前講座が必要であると考えた。

○取組3: 多文化共生社会における医療と福祉の状況のシンポジウム(勉強会)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

本プロジェクトの成果発表と地域における医療福祉の現状、日本と外国の医療の違いを伝え、日本で生活する外国人の日本語教育として福祉と医療の中でよく使われる用語や、制度の仕組みの必要性をアピールする。

(2) 取組内容

第1部: 事業の取組について

発表者: 山城ロベルト

第2部: 外国人が日本で生活するための日本語

講演者: 斯波千秋

(3) 対象者

外国人市民、支援者

(4) 参加者の総数 35 人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	8人	ペルー	6人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	21人	

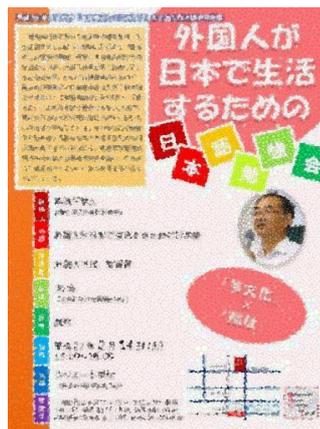
(5) 開催時間数(回数) 3 時間 (全1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成27年 2月14日 13:00～ 16:00	3時間	クリエート浜松	35人	ペルー6人、 ブラジル8 人、日本21 人	外国人が日本で 生活するための日 本語勉強会	第1部:事業の取組について 第2部:外国人が日本で生活するための日本語	山城ロベルト、斯 波千秋	

(7) 参加者の募集方法

チラシ配布、メーリングリスト及びソーシャルメディア(ツイッター、フェイスブック等)による広報を行った



(8) 特徴的な活動風景



(9) 取組の目標の達成状況・成果

斯波千秋さんの講演の中で、障害というのは字が読めないのは視覚障害、話している内容がわからないのは聴覚障害であり、今の日本は国際的になっているからこそ、いつ自分が視覚障害や聴覚障害になるかはわからないという言葉が深く残っている。アンケートの中でも日本語を覚えることは障害をなくすことだという意見もあった。医療や福祉と日本語教育でどんなつながりができるのだろうと考えていたが、実は生活に密着していてとても重要な日本語教育であると気付くことができた講演会だと感じた。

(10) 改善点について

今回のシンポジウムは日本人が多く、外国人市民が少ない状況だった。だが内容的には外国人市民にも聞いてもらいたい内容になっていたため、広報方法をどのようにしていくのが課題として残った。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

静岡県西部地域に在住する外国人市民に生活していく中で欠かすことができない医療言語や社会福祉支援制度、また自身や家族・子どもに障害があった時に治療においてどのような日本語が使われ、福祉支援制度においてどのような日本語が出てくるのかを勉強し、外国人市民自らが支援制度などの情報の取得や申請・利用できることや医療において正しい情報を取得し、治療方法の選択ができることを目的とする。

(2) 事業目的の達成状況

- ①医療時に使われる用語を理解することで自分が何を言わなければいけないのか、何は言わなくてもよいのかを知ってもらうことができた。
- ②緊急時の対応方法とその時に使う言葉を知ってもらい、その時に自分一人で抱え込むのではなく周りにはいる地域住民に助けを求める術を知ってもらうことができた。
- ③障害を負ったときにどのように対処すべきなのか、どんな福祉が受けられるのかを知り、その言葉を知ることによって生活に対する幅を持つきっかけを提供できた。

(3) 地域における事業の効果、成果

外国人市民が看護師や社会福祉士などの専門家と直接話し合い、講義を受けることで専門家からの言葉や言葉の意味を理解してもらうことができたのと、実際の現場の状況を話してもらえたことで今の日本の医療や福祉の現状を知ってもらうことができた。

日本人も一緒に受けてもらうことで外国人市民がどのようなことで困っているのかを知ってもらうきっかけを提供できた。

(4) 改善点、今後の課題について

国によって医療や福祉が違う事から、通院時にどのような誤解が起きやすいのか、また福祉はどうなっているのかを日本語が一切わからない方にもわかりやすくしていく取り組みが必要となっている。日本語がわからないから受けられないではなく、どのように伝えたら受けられるのかの検討が必要であると考ええる。

i 現状

いまだ医療や福祉については誤解が多く、本来なら受けられるはずの支援や治療が受けられていない方は多くいる。

また病院に行くまでの間でも海外では救急車が有料の国もあるので日本でも有料だと思い込み、重篤でありながらも自分で行って治療が手遅れになる現状がある。

ii 今後の課題

現状を踏まえたうえでこの課題を解決するためには日本の福祉や医療支援制度をきちんと理解してもらうことは必要であるがそれ以上に自分の問題や状態を説明できるようにするにはどうしていくべきかを検討していく必要がある。

またその事を支援できる外国人リーダーが最低でも小学校区に2~3名は必要であると考ええる。

iii 今後の活動予定

- ①日常生活の中で必要になる医療福祉用語が解説されている用語集の開発。
- ②医療通訳ではなく、医療や福祉支援ができる外国人リーダーの人材発掘と養成。
- ③医療機関・行政・福祉支援施設とペアを組み、医療や福祉に必要な言葉を話せるようになる講座の開催。

(5) その他参考資料

取組Ⅰ チラシ2種類

取組Ⅰ チラシ2種類

取組Ⅱ チラシ1種類

取組Ⅲ チラシ1種類

取組Ⅲ シンポジウム報告書1種類